

# 教団新報

定価 1部150円(本体137円+共214円)  
予約購読料 1年分 7共 5,350円  
紙代のみ 3,750円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
URL http://uccj.org  
発行人 秋山 徹  
編集主筆 嶋田 恵悟  
印刷所 株式会社きかんし



議員の多くはオンラインで

## 第41総会期

# 常議員会

第7回

## 第42回教団総会、来年開催へ

第7回常議員会が7月6日、開会時常議員26名が出席して開催された。

四役、幹事他数名が教団会議室に集まり、多くの議員はオンラインで出席した。

冒頭、梅崎浩二常議員が、九州・熊本の大雨による被害状況について、「現在のところ教区内の教会・伝道所に礼拝堂、牧師館の被害は無いが、信徒宅には床上浸水の被害が出ている」と述べた。

書記報告において雲然俊美書記は、新型コロナウイルス感染拡大防止のための指針を送付したと、「外国人ヘイト」による人権被害に抗議する声明を出したこと、出版局に関する三役(常議員会、責任役員会、出版局理事長)協議会を3回開

催したことなどを報告した。報告に対する質疑で、「感染拡大防止のための指針が教会に混乱を生じさせているが、指針は誰に宛てて、議長のような権限で出したのか」との問いがあった。

石橋秀雄議長は、「教会に宛てて、役員会で課題としてほしいとの思いで出した。どう受け止めるかは教会の主体的判断があると思う」と述べ、雲然書記は「礼拝の持ち方に関わるため教規39条の総括行為に当たると判断した」と述べた。

総幹事報告では秋山徹総幹事が、コロナ禍で教団3局が在宅勤務など業務を縮小していたが6月1日より平常業務に戻っていること、全国会議、委員会がオンラインで開催し、国内の出張は少しずつ認めていることなどを報告した。

また、教団伝道対策「全国伝道推進献金」が258万5590円となっていること、カナダ合同教会が日本にある資産の償却を行い、教団本体へ7600万円の寄付を決定していることを受けて、使途の方針について協議を続けていることなどを報告した。

熊本・大分地震被災教会会堂等支援委員会報告では、横山良樹委員長が、4月に竹田教会、別府野口教会に計450万円を送金し、全ての送金が終わったこと、残額625万5351円を救援対策引当金に戻入れることを報告した。

「第42回教団総会開催に関する件」では、議長からの提案として、今秋予定されていた、「第42回教団総会」は開催せず、41総会期を1年延長し、来年、第42回教団総会を開催する」ことが提案された。提案理由として、新型コロナウイルス感染症は、今なお脅威であり、感染リスクを無くすることはできないと判断したこと、教規第35条の(4)に該当する事柄であると判断したことなどが述べられた。

「法定議案のみを書面などで行うことはせず、全体を延期ということか」との問いに対して、石橋議長が「そうである」と応じた他、久世そらち副議長は、「2年分の報告書を作成し送付する準備をしている。承認は、3年分を来年度に行う」と述べた。賛成25名、反対1名で承認した。

この決定に対して、既に、教団総会で教団総会に、教団総会が教団総会を開催する」ことが提案された。提案理由として、新型コロナウイルス感染症は、今なお脅威であり、感染リスクを無くすることはできないと判断したこと、教規第35条の(4)に該当する事柄であると判断したことなどが述べられた。

### 財務関連

## コロナ禍の中で柔軟な対応を

宇田真予算決算委員会

委員長は、まず2019年度決算について報告した。年度末、各教会・伝道所の財政的営みへのコロナ禍の影響が懸念されたが、教区からの負担金は予算どおりに納入された。献金に、当初予算100万円を大きく上回る521万8734円の歳入があった。これはカナダ合同教会が3年間にわたり教団に献金を予定しており、その初年度分が献げられたことによる。歳入は当初予算より約500万円増額の決算

だった。歳出も事業活動支出項目に増加があった。増加の内訳は、教団特別財産処理としての鶴見教会の建物解体費、災害の多発により三役の会議回数が増えたための三役活動費、機構改定に備えての教団伝道対策検討委員会の活動費だった。また、教団職員3名の退職金と、会館および総幹事住宅の修繕工事への支出があった。経常活動全体では、差損が24.8万9896円だった。会館室料等を主な収入、教団

年鑑、新報に携わる人件費等を支出とする収益事業会計は37万9705円の差益となった。決算報告は承認された。

続いて宇田委員長は2020年度予算を説明した。コロナ禍により教会・伝道所の集會活動が阻まれ、財政的逼迫

が続いて宇田委員長は2020年度予算を説明した。コロナ禍により教会・伝道所の集會活動が阻まれ、財政的逼迫

が予想されることから、教区負担金は337万8000円の減収予算を立てた。感染拡大が教団活動も抑制しており、集中中止決定と委員会等のオンライン会議実施により、支出予算の未執行が見込まれる。今後の状況

の変化に対応できるよう、予算のうち1200万円を予備費に計上して第一次補正予算案を編成した。感染の影響により、今後の教区からの負担金減額要請や、さらなる教団事業活動支出減少が予想され、第二次補正予算

の編成が必要とされる。質疑では、予算決算委員会による今後の柔軟な対応への期待が寄せられた。予算報告、出版局決算、部落解放センター決算、年金局決算と各センター決算は承認された。(原田裕子報)

### 出版局

## 存亡の危機、内側からの身を切る改革

冒頭、山北宣久出版局理事長が、決算が約1600万円の赤字であることを報告し、加えて今年度5年連続の赤字決算であり、出版局存亡の危機の状況であるとした。この状況を深刻に捉

え、人件費率40パーセント以下を目指す努力をしており、職員からの要望もある中で、夏期賞与や課長手当等の減額や不支給という内側からの身を切る改革が行われていることも報告され、その後、

具体的な決算の詳細が報告された。

監査報告の中で服部能幸委員長が、出版局規定内の理事会の役割について課題があることを示し、さらに、責任役員会、常議員会等、雇用側の責

任についても言及した。その後、石橋秀雄議長が、職員のモチベーションの維持と、職場環境の改良も課題であり、職員の働きに感謝であると言った。

また、教団全体で出版物の積極的な購買運動をなすべきとの意見があった。

質疑では、現在の

(小林信人報)

## ▼予算決算委員会 ▲

## 新型コロナウイルスへの対応を協議

第5回予算決算委員会  
は6月16日にリモート会  
議にて開催した。

秋山徹総幹事より新型  
コロナウイルス感染リス  
クを避けるため、各教区  
総会の殆どが書面による  
開催や延期となったこ  
と、また緊急事態宣言を  
受け、通常の礼拝が出来  
ないため、経済的に逼迫  
する教会・伝道所が多く  
出ることを懸念している  
旨報告があった。

また道家紀一総務幹事  
並びに大三島義孝財務幹  
事より事業活動等に関し  
て報告があった。会議は  
原則オンライン上でなさ  
れ、また海外渡航規制の  
ため出張もなく、委員会  
等支出は2400万円程  
度が未実行であること、  
またリモート会議出席者  
について一回1000円  
を支給する等の報告が  
あった。

その後2019年度日  
本基督教団決算に関する  
件を取り扱った。  
経常会計の事業活動  
収入は3億1017万  
656円。支出は全体で  
3億1540万7261  
円となり、事業活動収支  
差額は523万6605  
円の減となった。また収  
益事業会計は会館室料収  
入が1156万2686  
円で最大値というべき状  
況にあり、事業活動収入  
計は2367万4835  
円。事業活動支出計は  
2291万130円で昨  
年度比237万6819  
円減。事業活動収支差額  
は76万4705円の差益  
があったことを報告し  
た。

続いて日本基督教団出  
版局決算に関する件を  
扱った。  
飯光出版局長代行は倉  
庫として使用していた33  
号室の年度末退去、不良  
在庫等処分、約1300  
万円の未払い印税に関  
する著者および著作権  
継承者に対するお詫び  
と事情説明を行い、献  
金・書籍購入等協力を仰  
いだ。6期連続の赤  
字で2019年度も約  
1600万円の差損が出  
ており、常議員会代表、  
責任役員会代表、出版局  
理事会代表による三者協  
議において職員の賃金等

に関する協議を重ねている  
旨報告があった。委員会  
としては出版局現状につ  
いて、大変憂慮している  
との意見も出された。

その他、部落解放セン  
ター決算、年金局決算、  
各セクター決算報告を取  
り扱った後に、2020  
年度実行予算について協  
議した。新型コロナウイルス  
の影響で、全国の教会・  
伝道所の働きに大きな  
影響が出ている中、委  
員会としての対応につ  
いて協議した。

次回委員会は9月25日  
の予定。なお第2回全国  
財務委員長会議は、感染  
リスクが高いため中止と  
なった。

(中村公一報)

## ▼信仰職制委員会 ▲

## 按手を巡る答申、付記事項を決定

第5回信仰職制委員会  
が、6月29日に委員6名  
と総幹事、担当幹事、担  
当職員の出席のもと教団

会議室にて開催された  
(ただし内4名はオンラ  
イン参加)。

前回議事録承認の後、  
関係教区常置委員会、お  
よび関係教区総会議長か  
らの諮問(前回答申済み)

に關連して次の2点を委  
員会にて確認した。  
今回の答申は、かつて  
の福音主義教会連合の教  
師検定試験及び按手礼執  
行は教規違反にあたるこ  
とを委員会として十分に  
理解しながらも、教憲教  
規第66条(3)により、按  
手礼式は教区総会が処理す  
べき事項であることに鑑  
み(既に1974年5月  
に兵庫教区総会にて同様  
の事案が存在する)、関  
東教区の判断を尊重する  
ものとしたこと。

ただし、今回の決定は  
当時の特殊な歴史的状況  
を踏まえて出されたもの  
であり、今後はこの答申  
が按手礼の前例とはなり  
えないことを示すこと。  
以上の確認に従って、  
今回の答申を決定した当  
委員会の責任を重く受け  
止めつつ、今後発行され  
る『教憲教規の解釈に関  
する答申集』に記録する  
際に、経過報告を含む  
「注」を付記することを  
決定した。

その内容は、今回の答  
申に關して当委員会は、  
できれば教団常議員会の  
議決をも経たいと願ひ、  
(武田真治報)



会議室とオンラインで

## 平和メッセージ

2020年  
在日大韓基督教会  
日本基督教団

2020年 平和聖日

日本基督教団 総会議長 石橋秀雄  
在日大韓基督教会総会長 趙 永 哲

「実に、キリストはわたしたちの平和であります。二つのものを一つにし、御自分の肉において敵意という隔ての壁を取り壊し、…十字架を通して、両者を一つの体として神と和解させ、十字架によって敵意を滅ぼされました。」

(エフェソの信徒への手紙2章14、16節)

日本基督教団と在日大韓基督教会は、1984年に宣教協約を締結してから36年の歴史を神に導かれて歩んできました。わたしたちを結びあわせる主イエス・キリストは、十字架を通して敵意という隔ての壁を取り壊し、二つのものを一つにしてくださいました。わたしたちは、主イエス・キリストこそ和解と平和の主であることを信じ、2020年の平和メッセージを表明いたします。

## &lt;新型コロナウイルス感染拡大について&gt;

新型コロナウイルス感染症が世界の脅威となり、日本においても事態が深刻化しています。今この時も、ウイルス感染による痛みや悲しみを覚えておられる方々、悩みと不安の中にある方々の上に、主なる神の慰めと平安をお祈りいたします。

新型コロナウイルス感染症によって、社会も、教会も、関係学校、関係団体も試練の中にあります。礼拝を中止せざるをえなかった教会、重症化が心配される高齢信徒の礼拝出席の自粛を求めるなど、大きな痛みの中で礼拝をささげている教会があります。また、両教会において、全国的集会や総会の中止・延期等も余儀なくされています。しかし、この大きな試練の中で「わたしの兄弟たち、いろいろな試練に出会うとき

は、この上ない喜びと思いなさい。」(ヤコブの手紙1章2節)との御言葉が示されました。どのような試練の中にも神の恵みに満たされて「この上ない喜び」となるとの御言葉に励まされています。すでに、教会では様々な工夫や取り組みが進められています。日本基督教団と在日大韓基督教会の全国の教会が、祈り合い、この大きな試練の中で、神の恵みを受け、喜びに満たされて礼拝をささげ、神の御栄光を現わすことができると祈っています。

## &lt;外国人ヘイト問題について&gt;

新型コロナウイルスの感染リスクに社会が脅かされる中で、外国人に対するヘイトスピーチなどの人権侵害がもたらされています。この度、外国人とかかわりのある特定の事業所に対し、「日本キリスト教団」の名を不当に用いた外国人ヘイト文書が送られたことが判明しました。理不尽な憎悪をあらわにした文書によって、どれほど深い痛みと傷がもたらされたかを思うと心が痛みます。被害に遭われた方々に慰めと癒しを切に祈ります。

わたしたちは、すべての人の命を贖うキリストへの信仰に基づき、「すべての人と平和に暮らしなさい。」(ローマの信徒への手紙12章18節)との御言葉に従って、差別のない社会が実現することを願ひ祈り、そのための愛による働きにあずかることを志しています。緊張と不安に満ちた今日の状況の中でこそ、社会の中で弱い立場に置かれた人々が守られ、支えられなければなりません。社会の動揺に乗じたあらゆるヘイトに反対し、この社会に生きるすべての人々の人権が守られるべきことを改めて表明します。

## &lt;在日外国人政策について&gt;

新型コロナウイルス感染拡大により、各教会、学校、施設においても、この状況下での活動に苦闘しておられること、その労力の多大なことは想像に難くありません。日本に在住する外国人、移住労働者たちへの差別が顕在化していることが報じられています。「自粛」を「要請」しながら生存に必要な「保障」を出し渋り、弱くされているところにさらなる圧迫と危機を与え続けるといふ差別的事態が広がっています。

この状況下で特に根深い差別意識と排外的政策によって引き起こされている出来事のほんの一断片であっても、連続して共有し続け、それぞれの宣教における祈りと支援の連帯を喚起して行きたいと思います。

## &lt;人種差別問題について&gt;

アメリカで白人警察官による黒人男性死亡事件が起きました。聖書には、「神は御自分にかたどって人を創造された。神にかたどって創造された。」(創世記1章27節)とあります。人種差別は、その人間の尊厳、霊的な部分を深く傷つける罪に他なりません。一日も早く、このような愚かな行為が世界から根絶されるよう、わたしたちは祈りと行動を共にして行きます。

わたしたちの教会は今、地球を席卷する過酷なグローバル経済の下で、激変していく社会にあって、この世に遣わされたキリストの体なる教会として、寄留者を歓待の精神で迎えながら、単にナショナルな教会ではなく、移民排斥・マイノリティ排除に抗して、寄留者が招き入れられる「神の家族」(エフェソの信徒への手紙2章19節)として改革されて行くことが求められています。それは同時に、教会自体が今から次の時代へと、頭なる主イエス・キリストによって生かされ、遣わされ、用いられる道であると考えます。

▼社会委員会▲

# 課題を受け止め、申し送り事項を協議

第5回社会委員会は、6月30日にズームによるオンライン会議として行った。

当初は6月29日から30日にかけて全国社会委員長会議を開催し、その後、に会場の教団会議室で引き続き行う予定としていたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために社会委員長会議を中止し、委員会も初めてネット上で各地をつなぐ形で行うこととなった。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

▼伝道資金小委員会▲

# 申請された計画中止・変更の対応を協議

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

第3回伝道資金小委員会が、6月19日、教団会議室における参加者とズームを用いたオンライン会議の参加者によって開催された。

# カナダ合同教会からの献金について

1925年に誕生したカナダ合同教会の前身の一つであるカナダメソジスト教会は1873年に宣教師を日本に送り、1874年の静岡教会設立以後、多くの教団所属教会の設立とミッションスクール創設と運営に寄与した。カナダ合同教会設立後も、宣教師が結ばれていないが、相互に宣教師を派遣し今日に至っている。カナダ合同教会の教団に対する誠実な祈りとサポートは、教団諸教会に是非覚えてほしい。

教団に対しては、2017年を皮切りに毎年教団の宣教プログラムのために献金が送られ、2020年には既に350万円の教団宣教プログラム献金が届いている。カナダ合同教会との関連では2018年度、2019年度はカナダ合同教会派遣宣教師である木原葉子宣教師が中心になり、青年キャンプをバスケールで行った（木原宣教師は今年2月に召された）。お働きに感謝すると共にご家族に慰めを祈ります。

この度はカナダ合同教会のパーティ・タルボット幹事より、カナダ合同教会所有の日本の資産を現金化し、教団には総額7800万円を3年にわたり送金し、教団の宣教に役立てていただきたいとの連絡を受けた。カナダ合同教会はその宣教理念に基づいて海外の教会、団体に献金を送っている。

6月5日に行われたカナダ合同教会とのオンライン会議に於いては、カナダ側はパーティ・タルボット幹事、ジョン・ダーフィード弁護士、ロバート・ウィットマー宣教師、教団からは秋山徹幹事、加藤誠幹事、道家紀一総務幹事、高田輝樹職員、廣中佳実職員が参加し、献金の趣旨の確認後、教団としてはロバート・ウィットマー宣教師と共にカナダ合同教会の宣教理念を考慮した運用計画を7月末までにカナダ合同教会に提出することで合意を得た。

(加藤 誠報)

▼伝道委員会▲

# 資金援助実施要項最終改定版を協議

第5回委員会では、感染症拡大防止策として6月23日、オンライン会議で行った。業務報告として、前回は承認された開拓伝道資金申請について、当該教会への支援が実行されたことが伝えられた。これを受けて、伝道委員会では当該教会を直接訪問し、教会の状況を聞き、ともに祈ることを大切にしたいが、今般の状況を鑑み、これを電話にて行うこととした。

同じく、前回は承認された資金援助実施要項について最終改定版が提示された。

## 教区議長コラム

◆ 東海教区 ◆

宮本 義弘

東海教区では、5月末に開催予定であった教区定期総会を8月に延期する決断をしました。このことを協議した常置委員会で、基本的な考え方は、神の御心を問う教会会議としてのふさわしい形を模索するということも、書面での開催は馴染まないという出発点に立ってのことでした。そこで8月に延期開催を決め、今度こそ会議

## ホッとしてから先の

伝道所がそれぞれの決断をしました。今、それを振り返る時が与えられています。その中で、何が正しい判断だったのかを問う詰めることは意味のないことです。わたし自身も本務、兼務、代務で三つの

解はないわけですが、それよりも、束の間ではあっても、ホッとする時が備えられたのだから、これまでの歩みの中で罪に絡み取られた事柄を悔い改めることが第

一に求められているのではないだろうか。疫病の中にも神のご支配があることを信じてこれからも歩み続けるためにも、罪の悔い改めこそが信仰生活のこれから先を生かす道だと考えています。

そして、悔い改めには外からの光が必要です。御言葉の光が改めて一人一人の信仰生活を照らし出したとき、心が疼き、悔い改めへと導かれることを信じて、教区のホームページに毎週「御言葉が響き合う」を書き続けています。

(東海教区議長)

第5回委員会では、感染症拡大防止策として6月23日、オンライン会議で行った。業務報告として、前回は承認された開拓伝道資金申請について、当該教会への支援が実行されたことが伝えられた。これを受けて、伝道委員会では当該教会を直接訪問し、教会の状況を聞き、ともに祈ることを大切にしたいが、今般の状況を鑑み、これを電話にて行うこととした。

同じく、前回は承認された資金援助実施要項について最終改定版が提示された。

第5回委員会では、感染症拡大防止策として6月23日、オンライン会議で行った。業務報告として、前回は承認された開拓伝道資金申請について、当該教会への支援が実行されたことが伝えられた。これを受けて、伝道委員会では当該教会を直接訪問し、教会の状況を聞き、ともに祈ることを大切にしたいが、今般の状況を鑑み、これを電話にて行うこととした。

同じく、前回は承認された資金援助実施要項について最終改定版が提示された。

第5回委員会では、感染症拡大防止策として6月23日、オンライン会議で行った。業務報告として、前回は承認された開拓伝道資金申請について、当該教会への支援が実行されたことが伝えられた。これを受けて、伝道委員会では当該教会を直接訪問し、教会の状況を聞き、ともに祈ることを大切にしたいが、今般の状況を鑑み、これを電話にて行うこととした。

同じく、前回は承認された資金援助実施要項について最終改定版が提示された。

第5回委員会では、感染症拡大防止策として6月23日、オンライン会議で行った。業務報告として、前回は承認された開拓伝道資金申請について、当該教会への支援が実行されたことが伝えられた。これを受けて、伝道委員会では当該教会を直接訪問し、教会の状況を聞き、ともに祈ることを大切にしたいが、今般の状況を鑑み、これを電話にて行うこととした。

同じく、前回は承認された資金援助実施要項について最終改定版が提示された。

## 日本伝道の推進を祈る日

頌主。  
「日本伝道の推進を祈る日」(毎月第3主日)におぼえる『信徒の友』8月号の掲載は「西中国教区」と「四国教区」の教会です。全教団的に祈り合い、支え合い、推進していきましょう。  
『信徒の友』を購入して、お読みの上、お祈りください。  
2020年8月1日  
日本基督教団総幹事 秋山 徹



<p>言することができる。ただし、 表決に加わることができない。</p> <p>(1) <u>正教師</u>で議員でない者</p> <p>(2) <u>補教師</u>で議員でない者</p> <p>(3) <u>教区総会</u>において推薦する者</p> <p>(4) <u>キリスト教教育主事</u></p>	<p>言することができる。ただし、 表決に加わることができない。</p> <p>(1) 教師で議員でない者</p> <p>(2) <u>教区総会</u>において推薦する者</p> <p>(3) <u>キリスト教教育主事</u></p>
<p>第63条① 略</p> <p>② 議長および副議長は、<u>正教師</u>たる議員の中から、書記は議員の中から、定期教区総会において選挙する。</p> <p>③－④ 略</p>	<p>第63条① 略</p> <p>② 議長および副議長は、<u>教師</u>たる議員の中から、書記は議員の中から、定期教区総会において選挙する。</p> <p>③－④ 略</p>
<p>第66条 教区総会において処理すべき事項は次のとおりである。</p> <p>(1) － (2) 略</p> <p>(3) 教師の<u>按手礼</u>および<u>准允</u>に関する事項</p> <p>(4) <u>牧師</u>、<u>伝道師</u>の就任、退任その他教師の移動に関する事項</p> <p>(5) 以下 略</p>	<p>第66条 教区総会において処理すべき事項は次のとおりである。</p> <p>(1) － (2) 略</p> <p>(3) 教師の<u>按手礼</u>に関する事項</p> <p>(4) <u>牧師</u>の就任、退任その他教師の移動に関する事項</p> <p>(5) 以下 略</p>
<p>第103条 教会担任教師が<u>正教師</u>であるときは<u>牧師</u>、<u>補教師</u>であるときは<u>伝道師</u>という。</p>	<p>第103条 教会担任教師を<u>牧師</u>という。</p>
<p>(参考)</p> <p>「日本基督教団 教会」規則(準則)</p>	<p>(参考)</p> <p>「日本基督教団 教会」規則(準則)</p>
<p>第14条① 担任教師が<u>正教師</u>であるときは<u>牧師</u>、<u>補教師</u>であるときは<u>伝道師</u>という。</p> <p>② 略</p>	<p>第14条① 担任教師を<u>牧師</u>という。</p> <p>② 略</p>
<p>第15条 牧師または伝道師が就任したとき、教会は教区と合議の上、就任式をおこなう。</p>	<p>第15条 牧師が就任したとき、教会は教区と合議の上、就任式をおこなう。</p>
<p>第104条 教会担任教師は、次の教務を執行する。<u>ただし、伝道師は第2号の教務を執行できない。</u></p> <p>以下 略。</p>	<p>第104条 教会担任教師は、次の教務を執行する。</p> <p>以下 略。</p>
<p>第123条① <u>教師は分けて正教師および補教師とする。</u></p> <p>② 教師は教区および教団の名簿に登録しなければならない。</p>	<p>第123条 ① 削除</p> <p>教師は教区および教団の名簿に登録しなければならない。</p>
<p>第124条① <u>正教師</u>とは、<u>正教師試験</u>に合格し、教区総会の議決を経て、<u>按手礼</u>を領したものである。</p> <p>② 略</p>	<p>第124条① 教師とは、<u>教師試験</u>に合格し、教区総会の議決を経て、<u>按手礼</u>を領したものである。</p> <p>② 略</p>
<p>第125条① <u>補教師とは補教師検定試験</u>に合格し、教区総会の議決を経て、<u>伝道の准允</u>を受けたものである。</p> <p>② <u>准允は、教区総会議長がつかさどる。</u></p>	<p>第125条 削除</p>
<p>(参考)</p> <p><u>宣教師に関する規定</u></p>	<p>(参考)</p> <p><u>宣教師に関する規定</u></p>
<p>第5条 (職制)</p> <p>受入れ宣教師で、本教団の教師と同等の准允もしくは按手礼を受領した者は、教規123条の本教団の教師とみなす。</p>	<p>第5条 (職制)</p> <p>受入れ宣教師で、本教団の教師と同等の按手礼を受領した者は、教規123条の本教団の教師とみなす。</p>

<p>教憲変更議案：「<u>教憲9条</u>を改正し、伴って関連教規条項を改正する件」掲載について</p> <p>2020年8月1日</p> <p>第41総会期 日本基督教団総会議長 石橋秀雄</p> <p>第70回九州教区定期総会にて、第42回教団総会への提出議案として可決されました。本議案は、「<u>教憲変更議案</u>」となります。教憲12条に則り、教団新報にて「公表する」こととなりました。</p>	
<p><b>教憲9条を改正し、伴って関連教規条項を改正する件</b></p> <p>提案者 第70回九州教区総会議案</p> <p>現行の教憲第9条の規定「教師はこれをわけて、正教師および補教師とする」は、先の大戦下に宗教団体法（1940年施行）及び同施行令の命じるところに従って合同前各教派が不可抗力的に採るに至った「二種教職制」を踏襲して定められた旧日本基督教団規則第207条「教師ハ之ヲ分チテ正教師及補教師ノ二種トス」を、戦後の混乱期に十分な検討なくそのままに引き継いだ（1946年6月制定）ものであって、教会の信仰に基く内的希求ないし信仰的決断に発した定めではない。</p> <p>従って、第42回日本基督教団総会は、先の戦時下に犯した“神の主権よりも国権を上位に置いた過ち”を深く悔改め、神が与え給うた信仰の自由なる決断において、教憲第9条を次の通り、改正し、伴って関連教規条項を改正する。</p>	
<p>《 現行規程 》</p> <p><b>教 憲</b></p> <p>第9条</p> <p>本教団の教師は、神に召され正規の手続きを経て献身した者とする。</p> <p>教師はこれをわけて、正教師および補教師とする。</p> <p>正教師は按手礼を領した者、補教師は伝道の准允を受けた者とする。</p> <p>なし</p> <p><b>教 規</b></p> <p>第7条① 略</p> <p>② 議長、副議長および書記は、<u>正教師</u>の議員の中から定期教団総会において選挙する。</p> <p>第12条① 略</p> <p>② 仮議長は、<u>正教師</u>の議員の中から選ぶ。</p> <p>第61条① 教区総会は、次に掲げる議員をもって組織する。ただし、沖縄教区の場合は、第1号ないし第4号の議員を教区規則の定めるところによって変更することができる。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) 教区内における<u>正教師</u>たる<u>巡回教師</u>および<u>正教師</u>たる<u>教務教師</u>の互選による者、総数の3分の1</p> <p>(3) 教区内における<u>正教師</u>たる<u>神学教師</u>各神学校の専任者、総数の2分の1</p> <p>(4) － (5) 略</p> <p>第62条① 次に掲げる者は、准議員として教区総会に出席し発</p>	<p>《 改訂規程 (案) 》</p> <p>第9条</p> <p>本教団の教師は、神に召され正規の手続きを経て献身し、按手礼を領した者とする。</p> <p>付則 (※12条の後に追加)</p> <p>上記の変更は、決議の日から3年を超えない範囲内において、常議員会の定める日から施行する。</p> <p>② 議長、副議長および書記は、<u>教師</u>の議員の中から定期教団総会において選挙する。</p> <p>② 仮議長は、<u>教師</u>の議員の中から選ぶ。</p> <p>第61条① 教区総会は、次に掲げる議員をもって組織する。ただし、沖縄教区の場合は、第1号ないし第4号の議員を教区規則の定めるところによって変更することができる。</p> <p>(1) 略</p> <p>(2) 教区内における<u>巡回教師</u>および<u>教務教師</u>の互選による者、総数の3分の1</p> <p>(3) 教区内における<u>神学教師</u>各神学校の専任者、総数の2分の1</p> <p>(4) － (5) 略</p> <p>第62条① 次に掲げる者は、准議員として教区総会に出席し発</p>

※下線部改正箇所 (参考) は、諸規定等で、関連して改正が必要となるものの例を示す。  
※教規改正以外に、「教師検定規則」の改正も必要となる。

提案理由

日本基督教団は、敗戦前の

国家統制の厳しい時代に採ることを余儀なくされた二種教職制度を、教会に相応しい制度であると捉えてきた訳ではありません。1954年の教団信仰告白制定後の1956年の教憲改正、それに続く再度の教憲改正作業(1958年)がなされた頃、「教師とは按手札を領した者ではないか」との意見が盛んに主張され、その正当性を認める形で「准允を受けた者」を「教師補」とする。内容の教憲第9条改正案がまとめられたのでした

が、第12回教団総会(1962年)では二種教職制の解消に至らないままの教憲改正となりました。しかし、議論は止むことなく更に続き、第15総会期信仰職制委員会(1968年)は「教師を二種とせず、一種のみとすべき」と結論し、同時に教師に至るまでの「教師補」的制度を置くことが望ましいという方向性を打ち出しました。これをつけた第16総会期常議員会(1969年)は教憲第9条改正の必要を認める決議をなしました。その後、常任常議員会の下に設置された作業委員会が提出した報告を基に常議員会は、1970年7月、第17回教団総会に二種教職制廃止を目的とする教憲第9条改正を正式に提案することを決定したのでした。その内容は、教憲第9条の条文を「本教団の教師は、神に召され正規の手続きを経て献身し、按手札を領した者とする」というものであり、これに伴う教規、関連規則の変更を第18回教団総会に

要因であったと思われる。直近、最後の教団的取り組みは、第30総会期第5回常議員会(1998年7月)が提案し、第32回総会(2000年)で可決された「教憲9条を検討する件」でした。これは実に3総会期をかけての検討でしたが、教憲第9条検討作業委員会は2006年2月の第34総会期第4回常議員会に、これ以上の検討作業継続は困難であるとの最終報告を提出、常議員会がこれを承認したことによって、二種教職制度は教団の議題とされることとなった。この時点で課題克服を阻んだ要因のひとつは、温存された二種教職制度と共存するうちに、補教師という制度の中に訓練期間としての「有用性」を見出す層が現れてきたことであったと考えられます。

以上のように、教憲第9条に定められた二種教職制度に対する問題意識が、時の経過と共に退行してきたことは否めません。しかし、そうであるからと云って、教会の根幹に関わるこの問題を捨て置くことはできません。先の敗戦後にいち早くこの問題を指摘した先輩方やその後改正努力を積み上げて下さった方々は、「正教師・補教師の別によって御言の宣教と聖礼典執行が分離されることはプロテスタントの神学から承認されないこと」であり、「二種教職制度とは国の圧力の下に採ってしまった便法であり、神の主権よりも国権を上位に置いた過ち」の痕(しるし)であることを明確に見抜いておられたのです。この認識は正当です。便法の上に主の教

会が建て上げられるはずはなく、「神の主権よりも国権を上位に置いた過ち」の痕を帯びたまま、まことの教会となし得る道理もないことです。補教師制度に訓練期間としての「有用性」を見出すことも本末顛倒というほかありません。

長い年月にわたる議論の膨大な集積に怖れを抱いているとしても、これより生起するであろう法規相互の整合作業や制度整備にたじろぐ思いに囚われているとしても、私たちは「教憲9条を改正し、伴って関連教規案項を改正する」ことを決断すべきです。私たちは主のみに従う教会であらねばならず、従ってそれを体現せねばならないからです。

尚、本議案は、第41回日本基督教団総会に提出された議案と内容を同じくする議案です。第66回九州教区定期総会(2016年)において決議され、その後、同年開催の第40回日本基督教団総会に提出された議案は、提案者の責めに帰せられるべき理由なく、教憲12条所定の期間内議案公表手続きに瑕疵が生じたため、上程されることがありませんでした。また、この議案に修正を加え、第68回九州教区定期総会(2018年)において決議され、その後、同年開催の第41回日本基督教団総会に提出された議案は、総会に残された審議時間がわずかであったので、短時間でこの議案を判断することを避けるため、提案者である九州教区総会を代表する総会議長自ら取り下げました。

この過程で、九州教区総会が願ってきたことは、教団の歩み、ひいては「国家と教会」という、信仰の本質にも関わる重要な主題を内包する本議案がこのまま捨て置かれ、二種教職制度の課題が風化していかないこと、また、かつての教団が真剣に向き合おうとした二種教職制度への検討・協議の場が、いま一度回復されることでした。

事務局報

岩井 啓(隠退教師)



14年10月27日逝去、83歳。千葉県生まれ。56年関西学院大学大学院卒業。同年より成松教会、カナダ合同教会、鴨島兄弟教会を牧会し、98年隠退。遺族は娘・岩井信子さん。

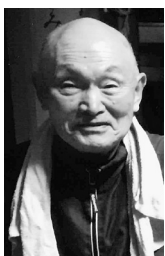
大坂正治(隠退教師)

寺崎 真、寺田時雄、土井栄子、森美由紀(2020・5・28受按) 稲葉義也(2020・6・14受按) 竹花牧人、古谷次郎(2020・6・19受按) 教師異動 高知 辞(担)見城康佑 下川口 就(担)黒田若雄 世田谷平安 辞(主)長村亮介 小 辞(主)今泉幹夫 就(代)三原 誠 東金 辞(担)朴 貞連 志村栄光 辞(主)逢坂喜恵子 就(主)朴 貞連 四谷新生 辞(主)の場恵美子 就(代)古賀 博 東京信愛辞(担)許 昌範 信濃町 辞(担)柳澤宗光 尾鷲 辞(代)吉川 進 就(兼主)吉川 進 就(兼主)三好祐輝 武生辞(主)佐々木千沙子 就(代)亀井拓也 東京新生辞(主)森 浩 就(主)佐々木千沙子 就(主)佐々木千沙子 東大和 辞(担)今井栄一 関西学院聖和短期大学 辞(教)森田喜基 頌栄保育学院 辞(教)森田喜基 同志社大学 就(教)森田喜基 高橋優美子 就(主)吉田 慈 錦林 就(代)新井 純

京都 就(担)金澤正善 上島羽 辞(主)月下星志 就(主)兼松 豊 今津 辞(主)桑原博文 就(代)山本真司 水口 就(担)松永明夫 辞(担)榊田翔希 平安 就(担)山下 毅 洛陽 辞(主)森下 耕 就(代)入 順子 就(担)榊田翔希 愛和病院就教森下 耕 就(主)信太聖吾 坂出 辞(主)山森風花 就(主)関谷慶太 日出 辞(主)関谷慶太 就(代)工藤俊一 大阪東十三 辞(担)岡本聖美 辞(神)小田部進一 神戸平安辞(代)松隈 協 就(主)岡本聖美 山手 辞(主)坊向輝國 就(兼主)竹内紹一郎 神戸北 就(担)高木政臣 関西学院大学神学部 就(神)小田部進一 福岡渡辺通 就(担)馬場喜与実 三重 就(担)相浦めぐみ 天城 就(担)吉田 慈 蕃山町 就(担)高根祐子 油木 辞(代)反町潤平 就(兼主)反町潤平 上下 辞(代)木村弘美 就(代)梅崎須磨子 宇部 辞(代)小畑太作 就(兼主)小畑太作 明治学院高校 就(教)上野峻一 土沢 辞(主)上野玲奈 用賀 辞(担)中原眞澄 就(代)関本信一 広島東部就(担)月下星志 東広島 辞(代)濱田裕三 就(主)濱田裕三 岩国 就(代)海老原道宣 就(代)角田 潤 光

安来 辞(兼担)土肥香織 見附 辞(主)矢吹一夫 就(代)富井鉄兵 就(担)矢吹一夫 新潟愛泉就(主)大島庄吾 柝尾 就(主)野澤幸宏 巻祝福 辞(代)手束信吾 就(兼主)野澤幸宏 新島学園中学高校 就(教)吉居美緒 越生 辞(代)山岡 創 就(主)佐藤彰子 埼玉大通り辞(主)川添義和 就(主)稲益久仁子 西千葉 就(担)川添義和 岩城 辞(代)坂田 進 就(代)広瀬満和 根津 辞(主)齋藤 正 東京神学大学 辞(神)藤野雄大 成宗 辞(兼主)藤野雄大 就(担)藤野美樹 就(主)齋藤 正 東北学院大学 就(教)藤野雄大 仙台南 辞(主)佐藤由子 就(主)加藤秀久 就(担)佐藤由子 磐城 就(主)高橋優美子 本宮 就(主)井田 信 大津 就(担)徳田 信 塚口 就(担)赤松真希 日向新生 辞(主)山本爽起子 就(代)竹井眞人 阿久根辞(代)戸田奈都子 就(兼主)戸田奈都子 弘前学院聖愛高校 辞(教)石垣雅子 千葉本町就(担)森下静香

お詫ひ・訂正 教団新報 4928・29号3面「事務局報」欄、逝去教師名「寺尾達彦」↓「寺尾龍彦」に、お詫ひして訂正いたします。



20年5月31日逝去、84歳。秋田県生まれ。62年農村伝道神学校卒業。63年より秋南、北上、土佐福音、中濃教会を牧会し、09年隠退。遺族は妻・大坂洋子さん。

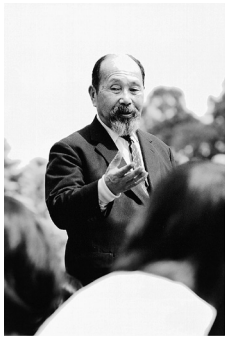
補教師登録 赤松真希、高木政臣(2020・5・28受允) 森下静香(2020・5・31受允) 高根祐子(2020・6・1受允) 吉居美緒、稲益久仁子、佐藤彰子(2020・6・9受允) 大島庄吾、野澤幸宏(2020・6・13受允) 井田一郎、加藤秀久、高橋優美子(2020・6・19受允) 正教師登録

寺崎 真、寺田時雄、土井栄子、森美由紀(2020・5・28受按) 稲葉義也(2020・6・14受按) 竹花牧人、古谷次郎(2020・6・19受按) 教師異動 高知 辞(担)見城康佑 下川口 就(担)黒田若雄 世田谷平安 辞(主)長村亮介 小 辞(主)今泉幹夫 就(代)三原 誠 東金 辞(担)朴 貞連 志村栄光 辞(主)逢坂喜恵子 就(主)朴 貞連 四谷新生 辞(主)の場恵美子 就(代)古賀 博 東京信愛辞(担)許 昌範 信濃町 辞(担)柳澤宗光 尾鷲 辞(代)吉川 進 就(兼主)吉川 進 就(兼主)三好祐輝 武生辞(主)佐々木千沙子 就(代)亀井拓也 東京新生辞(主)森 浩 就(主)佐々木千沙子 就(主)佐々木千沙子 東大和 辞(担)今井栄一 関西学院聖和短期大学 辞(教)森田喜基 頌栄保育学院 辞(教)森田喜基 同志社大学 就(教)森田喜基 高橋優美子 就(主)吉田 慈 錦林 就(代)新井 純

京都 就(担)金澤正善 上島羽 辞(主)月下星志 就(主)兼松 豊 今津 辞(主)桑原博文 就(代)山本真司 水口 就(担)松永明夫 辞(担)榊田翔希 平安 就(担)山下 毅 洛陽 辞(主)森下 耕 就(代)入 順子 就(担)榊田翔希 愛和病院就教森下 耕 就(主)信太聖吾 坂出 辞(主)山森風花 就(主)関谷慶太 日出 辞(主)関谷慶太 就(代)工藤俊一 大阪東十三 辞(担)岡本聖美 辞(神)小田部進一 神戸平安辞(代)松隈 協 就(主)岡本聖美 山手 辞(主)坊向輝國 就(兼主)竹内紹一郎 神戸北 就(担)高木政臣 関西学院大学神学部 就(神)小田部進一 福岡渡辺通 就(担)馬場喜与実 三重 就(担)相浦めぐみ 天城 就(担)吉田 慈 蕃山町 就(担)高根祐子 油木 辞(代)反町潤平 就(兼主)反町潤平 上下 辞(代)木村弘美 就(代)梅崎須磨子 宇部 辞(代)小畑太作 就(兼主)小畑太作 明治学院高校 就(教)上野峻一 土沢 辞(主)上野玲奈 用賀 辞(担)中原眞澄 就(代)関本信一 広島東部就(担)月下星志 東広島 辞(代)濱田裕三 就(主)濱田裕三 岩国 就(代)海老原道宣 就(代)角田 潤 光

安来 辞(兼担)土肥香織 見附 辞(主)矢吹一夫 就(代)富井鉄兵 就(担)矢吹一夫 新潟愛泉就(主)大島庄吾 柝尾 就(主)野澤幸宏 巻祝福 辞(代)手束信吾 就(兼主)野澤幸宏 新島学園中学高校 就(教)吉居美緒 越生 辞(代)山岡 創 就(主)佐藤彰子 埼玉大通り辞(主)川添義和 就(主)稲益久仁子 西千葉 就(担)川添義和 岩城 辞(代)坂田 進 就(代)広瀬満和 根津 辞(主)齋藤 正 東京神学大学 辞(神)藤野雄大 成宗 辞(兼主)藤野雄大 就(担)藤野美樹 就(主)齋藤 正 東北学院大学 就(教)藤野雄大 仙台南 辞(主)佐藤由子 就(主)加藤秀久 就(担)佐藤由子 磐城 就(主)高橋優美子 本宮 就(主)井田 信 大津 就(担)徳田 信 塚口 就(担)赤松真希 日向新生 辞(主)山本爽起子 就(代)竹井眞人 阿久根辞(代)戸田奈都子 就(兼主)戸田奈都子 弘前学院聖愛高校 辞(教)石垣雅子 千葉本町就(担)森下静香

お詫ひ・訂正 教団新報 4928・29号3面「事務局報」欄、逝去教師名「寺尾達彦」↓「寺尾龍彦」に、お詫ひして訂正いたします。



清水安三



桜美林大学町田キャンパス

## 《若い日の安三》

桜美林学園は来年 2021 年に創立 100 周年を迎える。100 年前の 1921 年、桜美林学園はどのようにして誕生したのか、その経緯をたどりながら創立者である「夢追い人、清水安三」の人物像を紹介したいと思う。

清水安三は 1891 年、琵琶湖の西岸、滋賀県高浜町の比較的裕福な半農半商の家に次男として生まれた。しかし、長男の放蕩が原因で実家が没落し、安三は経済的に困窮した少年時代を過ごすことになる。旧制膳所中学（現在の県立膳所高校）に入学するものの、貧しい家庭環境のため学業に集中できず、安三の言葉を借りると“いつもクラスの中で最後から数えたほうが早い順序だった”。そうした安三であったが大きな転換期が訪れる。当時滋賀商業学校の英語教師に赴任したばかりのメルリ・ヴォーリス（1880～1964）との出会いである。安三はヴォーリスの招きでパイブルクラスに参加し、そこで初めてキリスト教信仰に触れたのであった。ヴォーリスの熱い信仰の影響で、安三は 1908 年に大津組合教会で洗礼を受け、さらには牧会者としての志を立て、学費を必要としない同志社大学神学部へと進学するのであった。

同志社時代、安三は大きな決断をする。唐招提寺を訪れた際、開祖鑑真和尚の布教への熱意に打たれ、また義和団事件で殉教した米国人宣教師ホレス・ピトキン逸話を耳にし、自分も宣教師となって中国へ渡ろうと誓うのである。

## 《中国へ派遣される》

組合教会最初の宣教師として安三は中国へ派遣されることになったが、出発直前、彼は大阪毎日新聞の

長谷川如是閑を前に“自分は中国に行って 20 歳代で小学校、30 歳代で中学校、40 歳代で高等学校、そして 50 歳代で大学を建てるつもりです”と公言し、“ホラを吹いたと言うならそれで結構。夢を持って海を渡る”と熱く語った。それがそのまま翌日の新聞に記載されたと聞く。この夢がその後、見事に結実するとは一体誰が想像出来たであろうか。まさしく「夢を見る人、清水安三」の誕生である。

1917 年 6 月、安三は中国の奉天（瀋陽）に着任したが、2 年後、“血と汗をぶち込んで”中国の土になる覚悟を決め、妻の清水美穂と二人で北京に移り住む。同年 1919 年秋、中国北部一帯を未曾有の大旱魃が襲った。この大災害に対して、欧米の宣教団体はいち早く救援活動に乗り出したが、安三も遅れずに立ち上がる。財界の大物渋沢栄一に直訴し、送られてきた義援金をもとに妻や中国の同志と共に大八車を引いて華北部の農村を巡り、飢えに苦しむ子どもたち 799 名を集め、北京の朝陽門外に急設した救済施設に保護するのだった。早魃がおさまった翌年、安三は子どもたち全員を故郷へ送り届けるのだが、不幸にして親を失った子どもには養子先を見つけ、最後の一人まで救い続けたのであった。

## 《北京 崇貞学園での活動》

朝陽門外一帯は、当時、貧困層が暮らす中国最大のスラム地域であり、若い娘たちがわずかな金銭で身売りされる日常を目にした安三は、少女たちを救う道は教育以外にない強い思いを抱いて、いわゆる読み書きとそろばん、つまり識字教育を行い、同時に自立のための技芸を習得させる無償の学校である「崇貞

## 桜美林学園創立者 清水安三の生涯

## 「夢を見よ」

三谷 高康  
(桜美林大学)

(ツオンチェン) 工読学校」を設立する。1921 年のことであった。この年をして桜美林学園の誕生と我々は考えている。その後、工読学校は「崇貞学園」と名称を変え、徐々に教育施設を整備し、1945 年の敗戦までひたすら教育活動が続けるのであった。その間、1924 年から 3 年間、安三夫婦は大原孫三郎の援助で渡米し、オベリン大学(Oberlin College)に留学。BDの学位を取得した。

崇貞学園は 1939 年に日本人部を併設し、文科省の認可を受けた高等女学校が開設されたのである。すると、たちまち日本国内のみならず、植民地であった朝鮮半島から多くの生徒が集まり、中国人、朝鮮人、日本人がともに学ぶ、所謂、「グローバルな学校」として注目を浴びるようになる。安三はとりわけ朝鮮人生徒に対して、朝鮮民族の誇りを失わないようにと心を配り、創始改名を嫌い朝鮮名で生徒を呼び続けたのである。勿論、当局からの非難と嫌がらせは覚悟の上のことであった。こうした安三の献身的な働きを北京の人々は高く評価し、何時しか「北京の聖者」と呼ぶようになっていった。

安三は自らの教育の理念を見事に一句で表現している。「学而人事」である、「学而人事」とはまさに「学ぶことは自分のためではなく隣人のためになすべきものだ」という教えである。つまり、学園は「隣人愛を体現する人」の育成のために存在するということである。この教えは桜美林学園の建学の精神として今もしっかりと受け継がれている。

## 《桜美林学園設立》

1945 年、戦争が終結した年、「崇貞学園」は中国政府に接収され、安三もすべてを失いトランクーつで家族と共に帰国の途に就く。その時安三は 54 歳。引退してもおかしくな

い年齢であったが、彼はそこで終わらない。彼には次なる夢があったのだ。その夢とは“敗戦の日本に必要なのは、平和を愛する世代を育てる学校の設立”である。

ある日、焼け跡が広がる東京神田を歩いていると、偶然にも路上で賀川豊彦と出会う。賀川は安三の学校設立の熱い思いを聞き、GHQから管理を任されていた東京町田にある軍需工場の職員寮を紹介するのであった。安三は早速、そこに桜美林学園高等女学校(旧制)を創立する。1946 年 5 月 28 日、帰国してから僅か数か月の出来事であった。1947 年に桜美林中学(共学)、翌年には桜美林高校(共学)が開設される。野球が大好きな安三は、早々と野球部を設立し“いずれ甲子園で優勝する”と豪語するのであったが、“またいつものホラだ”と周囲は眉をひそめる。しかし、桜美林高校野球部は 1976 年、夏の甲子園大会に初出場し、なんと決勝戦まで勝ち進み PL 学園を逆転で負かし初優勝を飾ったのである。安三はその時の心境を歌であらわした。“夢を見よ。夢は必ず成なるものぞ。うそとおもわば甲子園に聴け”そして、ついに 1966 年、生涯の夢であった 4 年制大学の創立を成し遂げるのである。桜美林大学は現在、7 学群の学士過程と 7 つの大学院研究科を合わせると約 1 万人の学生が学ぶ総合大学へと成長した。

この間、安三は常に学校経営の先頭に立ち、学長、学園長を歴任、1988 年 1 月 17 日、日曜日の説教を終え、“疲れた”とつぶやいて横になり静かに息を引き取った。96 歳の生涯であった。清水安三は大きな夢を抱き、それを実現する稀代の教育者・宗教家であった。

(Kyodan Newsletter より)



青戸 雄司さん

父の愛に  
生かされて

鳥取県米子市出身、福岡中部教会員、社会医療法人栄光会理事長

はじめにイエス・キリストに興味を持ったのは映画『ペン・ハー』を見たときだった。自ら「灰スクール」だったと語る中高時代、暇さえあれば映画館に通い、出会った一本だった。

高校 1 年生の冬、親戚に誘われて近くの教会へ行った。伝道集があり、小出忍牧師の「父の愛」と題した説教が心に突き刺さった。12 歳の時に無菌性髄膜炎に罹患して一カ月入院した。生きる意味、勉強する意味について悩み、自室の前にバリケードを作り、檄文を書いて立てこもったこともあった。問い続けてきた心の闇に一筋の光が差し込んだ気がした。通っていた米子

教会で信田智伝道師から『4 つの法則』を示され、「自分のために死んでくださったお方がいるのか」と深く感動した。

大学に入り、友人たちと遊びもしたが心の平安を得られず、その年のクリスマスに米子教会で加藤俊行牧師より受洗した。それから、キリスト者学生会で熱心にキャンパス伝道に励んだ。所属する混声合唱部などで伝道トラクトを配ったが、誰も教会に来てくれない。一人だけ教会に足を運んでくれたのが現在の妻である。卒業と同時に結婚、4 人の娘に恵まれ、それぞれがクリスチャンの夫と結婚し

た。医師になってほどなく、大阪の病院に勤めたが、激務に「燃え尽き症候群」になり、妻の地元福岡にある栄光病院へ。忙しい仕事の傍ら、家族で教会に通うことを大切にしていた。娘たちが幼い時には、妻と共に近所の子どもを集めて土曜学校を開いていたこともある。

苦しんだ高校時代の「一度しかない人生、何か人の役に立ちたい」という思いから医師になった。だから、一人ひとりの患者と向き合う時「この人は神が与えてくださった人だ」という「祈り心」をもって、今日も聴診器を手取る。

新型コロナウイルス感染症の影響は大きい。社会生活や経済活動のみならず、あらゆる分野での対応が求められ、ウィズコロナの日常を過ごすための「新しい生活様式」と、「行動変容」が提唱されている。

そして、教会もまた否応無しに、アフターコロナの社会(コロナ禍を経験した社会のこと。コロナ禍の収束・終息後ということではない)における新たな伝道のあり方が求められている。今、いずこの教会でもウィルス感染防止の対策がなされてい

## アフターコロナの伝道

ることを思うが、あらためて認識したことは、ピフォーコロナにおいては、「三密の伝道」が主であったということである。教会での伝道集会におさそいする(密閉)。できるだけ多くの方に来ていただく(密集)。きわめて近い距離で大きな声で賛美をする。時には食事会をもつ(密接)。このようなことを「新

しい伝道様式」が必要とされている。すでに、オンラインや動画配信などの「新しい礼拝様式」によって、新たな恵みを与えられているとの声も聞いている。同様に、例えば、これまでのようなひざつき合わせでの伝道・牧会と共に、オンラインによる伝道・牧会といったことがなされることの意義も大きい。アフターコロナにおける「新しい信仰様式」の課題として、折りつつ模索している。

(教団総会書記 雲然俊美)